

「生日記」 学習記録

十月二日

② 担当(弘幸、和夫、加代子、和田)

而緝亦今日尚非無怙恃一者也、緝嚮歸山陰、展省墳墓、臨去、
吾父母之親友故舊、相集留緝曰、莫遠游、必莫勤苦作疾、
即使吾父母在、則其於緝者何如哉、必不使緝得遠游如今日矣、
而緝亦愛戀顧望、(不能須臾去其側也、)

読み

而るに緝亦今日尚ほ怙恃無き者にあらざるなり、緝嚮に山陰に歸り
墳墓に展省して去るに臨んで、吾父母の親友故舊、相集い緝を留めて曰く、
必ず遠游すること莫れ、必ず勤苦して疾を作す莫れ、即吾をして父母在りせしめ
ば、則ち其れ緝に何如か、
必ず緝をして遠游今日の如く得しめざるなり、而かして緝亦愛戀顧望し、(須臾
その側を去ること能わず。)

訳

しかし、緝はまた今日頼る人が無い者ではない。緝はさきに山陰に帰り
お墓に参つて去る時に、私の父母の友だちや幼なじみが集まり、緝を留めて言っ
た。必ず遠くに行つて学ぶことをしないように、必ず苦勞して勤め疾になるよう
なことのないように、もし吾が父母あつたとしたら、則ちそれ緝にはどうしたで
あろうか。必ず緝には遠くで学ぶことは今日のようにさせないだろう。そして、
緝はあれこれと思われて、(しばらくはその場所を離れることができなかった。)

言葉

怙恃 二コジ たのみにするものとしてたよる

嚮 二キョウ 向かう さき

展 二テン のばす みてまわる 展墓 二墓参りをする

省 二セイ みる かえりみる

故舊 二コキウ 昔なじみ

即 二ソク すなわち もし たといふとも 二であつても

何如 二イカン どうであるか

顧望 二コボウ 遠くからふり返つてみる ためらう はばかる

矣 二ナリ断定 カ 二反語、疑問 カナ 二感嘆

愛戀 二 愛して恋い焦がれる 使 二……をして……をさせる

③ 担当(哲彦、弘之、恭子、俊雄)

不能須臾去其側也、緝每讀古人書、誦古人詩、
至其父子相樂之際、徘徊唱咏、常必三復、
而或過人家、見父子對案而食者、
緝乃慨然亦有以想當日之歡也、且近年以來、

読み

須臾その側を去ること能わず。緝古人の書を読み、古人の詩を誦する毎に
その父子相樂の際に至ると、徘徊唱咏し、常に必ず三復す
而して人家を過ぎるとき、父子案に對して食するを見るに
緝乃ち慨然として亦以て當日の歡びを想ふこと有り、且つ近年以來、

訳

しばらくその場所を去ることができなかつた。私は古人の書を読み、古人の詩を
誦するたびに、父子が相い樂しむ所になるとそこらを徘徊しながら声を出して読
み上げ、いつでも必ず三回は繰り返した。
そして、人家を過ぎるとき、父子が机に向かつて相對して食事をしたりしている
を見たりすると、胸がいっぱいになり、その日の喜びを感じるのであつた。
その上、ここ数年間ずっと、

言葉

須臾Ⅱシユユ しばらくの間

案Ⅱアン 机

慨然Ⅱガイゼン 憂い悲しむさま 胸がつまってなげくさま